

村長の日記

10月1日（日）

小吹台入口 古物商施設の説明会

14時開会。10分前には200人以上の住民が集まった。皆さんの関心の高さがわかる。

岡田町内会長の挨拶で始まった。町内会及び対策機協議会よりの、19質問に対する回答および説明。大阪府建築安全課、大阪府産業廃棄物指導課、大阪府施設整備課、富田林市道路交通課、富田林市緑環境課、富田林市町づくり推進課、村からは、私、副村長、村住民課、村施設整備課の皆さんが出席。出来るだけ丁寧に説明、答弁するようにお願いしていた。

- ・古物商となっているが本当は自動車解体業ではないのか。
- ・オイル他環境を阻害するものがたれ流しではないか。
- ・塀その他により景観が害されている。
- ・違法行為はないのか。
- ・トレーラーなどの通行により、交通の邪魔になると共に危険だ。

等々の問題であった。

大阪府、富田林市、村の職員はかなり丁寧な答弁説明を行い、十分とは言えないが私たちは法の範囲内でしか動けないことを、従来よりは理解いただいたと思う。

時間が足りないなどのブーイングはあったが、説明に対し一定の理解は頂いた。昨年自動車解体業の話が出てから、村は顧問法律事務所に対応策を相談したが「違法行為が無い場合は訴訟になじまない」。大阪府の住宅街造り部、環境農林水産部、担当副知事に善処をお願いするとともに、土地が所在する富田林市、近隣の河内長野市にもお願いし、現行法の範囲で取りうる対策をすべて網羅し、現在に至っている。私が住んでいる千早地区でも悪臭を発する施設が隣の河内長野市域にあり、30年来悩まされている。気を緩めることなく、運動を続けよう。

村長の日記

10月2日（月）

朝

辞令交付

今年は10月1日付で3人を新規採用した。本来採用は4月1日付で行うのだが、今年は中途退職他で実戦部隊のメンバーが辞めたのと、退職後の任期付き職員が辞めるなど、仕事が非常にきつくなってきた。したがって平成30年度採用前に、3人を採用することになった。中途採用なので、実際に社会で仕事をしていた人たち。実社会で仕事の経験者。早い時間で村の戦力になってもらえる。辞令交付の時も元気があり、いい職員となって村おこしの戦力となってほしい。

● 課長マニュフェストの期中面談

本年年初、各課長に運営方針を時間明示で説明を受けた。各課順調に事業を消化しているが、新しい事業にはなかなか取り掛からない。各課長にはもっと早く事業を進めるように指示した。

しかし今年、10月はいつもイベントが多い月なのにもかかわらず、衆議院選挙が10月22日、そのうえ水分神社のお祭りが10月22日、村の赤阪地区、河南町、富田林の一部の地車が水分神社へ宮入りする。非常に忙しい月だが、ぜひ力を合わせて乗り切ろう。

9月28日衆議院解散の影響だが、竹本議員来庁、「13回目の選挙を頼む」。約2時間後、浦野先生来庁。あと10日で始まる衆議院選挙だが、すでに選挙戦は中盤を過ぎ終盤戦になっている。希望の党、民進党はどうなる。慌ただしい上に分からない選挙となっている。

不明朗会計問題に端を発した問題で、笠松監査委員、山形監査委員に監査報告を頂いた。2度とこのような事を起こさない村、隙のない早赤阪村作るのが私の仕事だ。

10月3日（火）

海外語学研修報告会（くすのきホール）

8月の海外語学研修報告会がくすのきホールであった。

今年は8人の中学生が参加した。海外で中学生によるホームステイを含む語学研修は、非常に珍しいケース。今年は女性2人、男性6人の8名。報告書は写真入りで立派なもの。皆さんの話を聞いていると、羽田を飛び立ってオーストラリア・ブリスベンまでの機中、ホストファミリーの家に着くまで不安の連続だったこと。ホストファミリーに慣れるにしたがって、オーストラリアの皆さんの優しさ、ホスピタリ

村長の日記

ティ(親切で思いやりがある事)に接して元気が出た事。バディ(現地の学生で、村の生徒のホスト役)がコミュニケーション役となり、何くれとなく親切で面倒見がいい、安心できる報告だった。

この事業は子ども達の「英語の学習に力を入れよう」「英会話は大事だ」という1つの動機付けになり、良い結果を生むと思う。ぜんぜん何もわからない外国に行って現地の人達と数日間とは言え生活できたことは、全てのことに積極的対処ができるトレーニングだ。

10月4日(水)

重要政策会議

今年の幼稚園入園者は3人、将来急に園児数が増えることは考えられない。数年後、幼稚園園児数10人~10数人で運営することは困難な問題だ。村は今、全国で始まっている幼保1元化の波を掴み、認定こども園に移行するのが良い方法だと思う。教育委員会もその方向で合意を得た。8日には住民説明会を開く。一部には公立幼稚園が必要だとの意見もあるが、認定こども園は幼稚園、保育園両方の機能があり、従来の保育園に教育機能を付与した施設、村も早く整備して発足させたい。建設場所をどこにするか？ 野外活動センター跡地、テニスコートあたりしか村有地は無い。1日も早く建設場所を決定し、土地の調整、境界確定から入り、早く実現させる必要がある。

10月5日(木)

毎日放送 ちちんぷいぷい 来庁

有名な西アナウンサーと対談。小吹台にできた弁当屋さん、コンビニ待望政策、村の開発 他、的確に質問された。1流のアナウンサーは違う。

Q 以前コンビニ誘致の件で村へ来たが、まだコンビは出来ていないのか？

A 村は人の集積が少なく、コンビニを開業するには人が少ない上高齢者多く、売り上げが期待できない。今回弁当屋さんが開業した小吹台では高齢化率が既に50%を超えている。

Q 村長はどうしてコンビにこだわるのか？

A コンビニにこだわる訳では無いが、村には高校生中学生などの集まる施設が無い。この年代は塾などが忙しく、なかなか一同に会することは無い。時には集まってイートインなどで話し合うチャンスが多ければ、少しは若い人たちも村に定住してくれるのではないかと。

村長の日記

Q この度村で弁当屋さんの開業にあたって村は補助金を用意したが、これで終わりですか。

A 村で起業してくれる人には可能な限り資金面、制度面での援助を惜しまない。一つ一つ増えることにより、住民の利便性もアップするし、村も少しずつ元気が出る。二年前に村の一番奥の千早地区で蕎麦屋さんが起業した、カフェもオープンした、起業補助を用意する前だったが元気に商いを続けている。おかげで少し地域は明るくなった。地域の人達が少しでもやる気を出してくれれば、言うことは無い。

Q 大阪唯一の村を元気にするには。

A 村は平成 26 年、過疎指定を受けた。大阪では初めてだ。村は道路インフラが非常に悪い。しかし年間 1 2 0 万人が登る金剛山がある。毎日上る人たちが 3, 0 0 0 人はいるが、この人たち以外の山ガール、山お婆さん、山ねーちゃん、たちを誘致して、ついてくる男性を沢山増やしたい。

インバウンドでは、朝鮮半島にあるクムガンサン(金剛山)の代わりに金剛登山をする韓国の人が増えてきた。大阪の屋根“金剛山”を日本一登山客の多い山にしたい。最近、二河流辺登山道が有名になって来た。ぜひ金剛山を中心に、水越峠、池ノ谷、足谷、東阪、上東阪、岩井谷方面からのアプローチを作り、日本一人の来る金剛山にしたい。

村の人達は、守り・待ちの安全志向の人が多いが、この度の弁当屋さんについて、少しずつでいいから前向き姿勢の人が増えてほしい。

1 9 月 1 2 日 (木)

佐賀市はバイオマス産業都市として、市営清掃工場で二酸化炭素分離回収事業を行っている。敷地面積は 5 0, 0 0 0 平方メートルと非常に広い。佐賀平野の真ん中にあり、周囲を見渡すとはるかかなたに山が望める、ゆったりとしたレイアウトの工場。廃熱を利用して 4, 5 0 0 kw の発電所を併設している。

工場の特徴は排ガス中の CO²を分離、植物工場に提供し光合成を促進することにより、植物の成長促進、藻類の培養促進を行い CO²の固定化を進める。

村長の日記

10月13日(金)

福岡市南部環境事業組合

この組合は南河内環境事業組合と同じく、1部事業組合、(福岡市、春日市、大野城市、太宰府市、那賀川町)の可燃ごみを適正に処理する、中間処理施設および最終処理施設を共同で建設し、運営している。ごみ焼却場は昨年オープン。床もピカピカの真新しい施設。

中間処理施設(ごみ焼却場)

この施設はDBO(DESIGN,BUILD,OPERATE)方式で作られた施設で、総事業費は669億円(建設工事期間5年、施設運営期間25年間)。DBO方式は、設計、建設、運営は一括して民間が請負う方式だが、資金調達、財産所有は組合が行う方式。従来はPFIが多く、PFI方式では民間が資金調達まで行うが長期にわたる事業の為、金利負担が大きい。したがって資金調達は事業者側で行い、金利負担を抑えた方式。

費用内訳：初期費用(施設建設費 323億円)(運営費等 346億円)

財源内訳：構成市町負担金 400億円、交付金 74億円、事業収入 117億円、手数料収入 78億円、(地方債借入れ 160億円)

この施設を運営しているのは、(株)創造の森。可燃ごみ焼却施設である工場を運営するために設立された特別目的会社であり、30年間にわたり運営準備から事業終了までの間、すべての運営業務を行う。

最終処分場

この処分場も民間委託方式。46億円で建設から運営終了までの29年間、民間委託で運営している。

管理者及び副管理者は各構成団体に輪番制で行い、運営は全て運営会社が行っている。

焼却工場には16,700kw/hの発電施設が併設されており21,000所帯分の電力を供給している。

10月14日(土)

20:00

竹本直一衆議院議員演説会(くすのきホール)

7時30分、くすのきホールに着いた所、あまり人気が無い。まだ30分はあるのだが、人が少ないと少し不安になる。今日の演説会には一人でも多く集まってほしい。ただ高齢化が進んでいる村では、8時開演は少し時間的に遅い。10分、15分すぎるに依り、三々五々人が集

村長の日記

まってきた。遅い会合なので夕食が終わってから集まってきたようで、満ち足りた感じの人が多い。

8時開演、竹本代議士は7時30分から始まる河南町の集会で演説を済ませてかやってくる。村自民党の皆さんから少し長めに話をしてほしいと要望があり、田中議長が演壇に上がった。彼は要望通り少し長めに話を続けたところ「長い！」の声があり演壇を降りた。

本来はスピーカーに時間を指定しておいてくれたらいいのと思うのだが、代議士の来援時間がわからないので大変だ。

吉村府議会議員、置田奈良県議会議員の話があり、代議士が奥さん同道で到着。皆さんの頑張ろうコールで散会となった。

10月15日（日）

千早神社秋の大祭

まだ10月の中旬、ほんの2~3日前まで30度近い気温だったのに、今日は寒い。9時過ぎ神社へ登る。かなりしんどい。千早地区の催事が楠公さんの城址から小学校へ降りたのがわかる。千早千区の高齢化率が50%を超えているので、千早城址の広場で祭事を行うのは無理だとわかる。息も絶え絶えに社務所へ到着、少し時間がたつと寒くなってきた。多分10度前後だろう、風邪をひかのように上着を着たが神前に座っているあいだ寒くて困った。

西沢宮司に千早の安全を祈祷していただいて、秋の大祭は終わり、直来となった。この後、1時より五條市の市制60周年記念式典があるので、皆さんに挨拶をして山を下りる。12時に金剛トンネル経由で五條市へ。太田市長の迎えを頂いて会場へ。市長の式辞に続いて奈良県新井知事の祝辞。大阪では副知事も来ないのに、やはり奈良は県と市町村が強い絆で結ばれていると思う。少しうらやましい気がするのは私だけではないだろう。

10月16日（月）

14:30

安部総理が竹本代議士応援に松原市へ来る

15分前に現場到着。松原のロータリーは歩道橋と言わず周囲の道路と言わず、人人人の波。雨が降っているにもかかわらず、車の通り道以外、人だらけだ。ロータリーで降りた所、秘書に案内され自民党の宣伝車の前に立つ。太田参議院議員が演説中すごい迫力。知事時代よりぐっと迫力が増した感じがする。この調子で大阪のために働いてほしい。

村長の日記

到着時間が遅れそう。ロータリー前、車の混雑を見ても遅れるのは当然だ。松原市議会議員の自民会派の皆さんの演説、府議会議員の演説が終わって、竹本代議士の演説が始まる。少し経過したところで総理が到着。歓声と拍手が自然に起こる。安部総理人気のほどがわかる。総理はかなりリラックスした様子で演説。阪神タイガースの話に触れたり、串カツのソース2度漬け禁止に触れたり、やはり長い総理経験がわかる。「この国を守り抜く」を前面に、多分いま日本を任せるのは安部総理しかないと思う。約十数分演説の後、総理は宣伝車を降りて移動用の乗用車へ。次の会場へロータリーを出たと思ったところ、総理の乗った車はロータリーを一周し、来場者へ左側の窓を開いて挨拶を繰り返している。ぜひこの心配りを候補者にも欲しい所。

日本の国をよろしく。

10月17日(火)

9:30

重要政策会議

幼保連携こども園、本年の幼稚園入園者は3人、来年の入園予定者は5名。どうしても保育所の入園者が多い。今、国が進めている幼保連携こども園を村にも作る気運が出てきた。

先日、小吹台、くすのきホールで説明会を開いたが、皆さんこども園移行については障害が無いようだ。始めは野外活動センターでこども園をとの話があったが、土砂災害地域他の理由で、村民グラウンド下のテニスコートへ設置することに決定した。

村の予定では32年開園。ただ問題点が少しある。ボーリング調査をして地盤を調べる必要がある。テニスコートの移転 他、32年開園となると、早く事業を進める必要がある。事業主体は村長部局と決まった。

千早赤阪認定こども園整備計画

H29年12月中旬 地質調査終了により設置場所決定

H30年3月 開発・建築許可等完了

H30年4月 テニスコート工事開始、6月完了

H30年6月 実施設計・造成・建築工事着工

H32年1月 工事完了

村長の日記

H30年4月 開園

必ずこのスピードで完了、時間厳守。

10月19日（木）

東京一極集中を避け、地方への元気と定住を推進するソフト事業、「ちやれんじ故郷ワーク」が始まった。

- 地域資源の活用で地域力を高めるシェアリングエコノミーを活用し、地域の課題解決、新しい生活産業による地域活性化の取り組み。
- 地域への「人・情報」の流れ創出に向け「観光以上移住未満」の思いを持った人に「地域との密接な繋がりを生み出す」

シェアリングエコノミーとは、遊休公共施設、廃校、空き家、空き店舗を、社会人サークル活動場所や個展会場、宿泊施設などに活用する取り組み。主婦などが日常生活サービス提供者となり、共働き所帯、高齢者などのサービス利用を望む者とのマッチングで日常生活サービスを対価を得て提供する仕組みなど。

従来、国の施策は箱物中心の施策だった。バブル崩壊以来、当時の箱物の維持管理が今、地方行政の大きな負担となっている。

将来にわたり人口減少、高齢化にさらされる小規模自治体にとって、施設を新設するのも大切だが、それ以前に現在使用されていない施設、廃校になった校舎等公共施設、空き家、空き店舗をリニューアル等の方法により再利用。地域産品の販売、失われたコミュニティの再生、故郷への思いを受け止める施設。ライフステージによって都市、田舎を行き来する人を取り込む施設、宿泊等色々なことが考えられる。高齢化、過疎化の進んだ地域では都市住民に故郷感覚を覚えてもらう事にもなり、活動がストップ状態になっている過疎地域でも伝統の食品、祭り、技術が新しい価値を生み出す結果になっている。

田舎にある施設、技術、食、コミュニティを新たな価値創造にシェアする事により、今一度過疎からの脱却を試みる価値がある。

10月22日（日）

豊能町40周年記念式典

先週の土曜日から降り続いた雨は、強くなってまだ降り続けている。7時30分出発で田中議長と共に豊能町40周年記念式典に出発。

今日、夜半から明日にかけて台風が来る予報の中、強い雨が降っている。いつも車が集中し車の流れが悪い松原線も、車の影がほとんどない。伊丹空港を過ぎ豊能の近くまで来たところ、このままでは1時間は早すぎる。マクドナルドでコーヒタイム、開会30分前に豊能着。

村長の日記

10時開演、池田町長の式辞で始まった。演台の前に立って気が付いた「眼鏡を忘れた」。祝辞の原稿を目に近づければ読める。少々詰まったが、祝辞を終えてホッとした。

台風

第1部が終わったところで帰る。台風の日、12時30分役所着。投票を済ませ、役所待機。雨ますます強し、危機管理の職員は既に待機。投票所配置の為、職員は少ない。避難所開設。16時、TVで台風は既に紀伊半島南部をスピードを早めて東北東へ、20時過ぎには伊勢湾へ抜けそうだ。

19時、雨降りやまず、危険なので千早投票所を閉鎖。降雨量は500mmに近い。村のデッドラインは250mm程なのだが、既に大きくオーバーしている。

20時、投票所閉鎖。土嚢がほしい、がけ崩れ、道路が崩れている、川が危ない等々の電話が次々入る。職員全員召集、雨の中、村内の被害状況を調査、100件を超える被害が出ている。

23日1時、やっと雨が止む。避難者は60人を超える、夜が明けたら復旧が大変だ。

10月24日（火）

本来は今日から海外出張の予定だったが、21~23日の台風で村の被害は予想外に大きかった。

23日朝キャンセルして、復旧が終わるまで村に張り付く。朝、役所からの帰り、上東阪の被害地では、早くから地域の人達が復旧に努力していただいているところを見て、感謝。

千早でも同じだが、地域の皆さんで可能な限り復旧の協力していただく、自助・共助・公助が働いている。行政の役割は可能な限りの地域援助・バックアップだが、地域の皆さんの協力はありがたい。

今回の台風は単独ではなく、約1週間前から秋雨前線のおかげで雨が強く降り続いた。その上に、21日~23日の午前1時までの豪雨で雨量は500mm、村のリミット250mmの2倍、最近の天候はどうかしている。

災害現場を何カ所か見て回ったが、地域の人達の努力で土嚢積を行っていただいた所、汚泥の除去、水路の掘削、皆さんにありがとうを連発する以外ない。国土強靱化が叫ばれている今、復旧も大事だが、防災を考えた強い村造りが大事だ。

村長の日記

10月29日（日）

台風22号がまた紀伊半島南岸を東へ。21号と違い、少し南に振っている。TVによると、紀伊半島より150km南を通過する。21号よりは少し影響が少ないことを祈るのみ。職員は当番制だが、主だった諸君は全て出勤。消防団の皆さん、団長、副団長以下役所に詰めてもらっているし、団員はすべて地域で待機だが、被害が出そうなところは既に出動、作業をしてもらっている。ここ2週間“土日”は全て犠牲にしてもらった、感謝するのみ。皆さんのおかげで村の安全が保たれている。

10月に入ってから7, 8, 9の連休、14, 15の週末、21, 22の週末は21号台風、今週は22号台風、秋の絶好シーズンなのに来村者が来ない。千早地区の数少ないサービス業者は天を仰いで溜息の連続だ。千早赤阪は雨が降ると来村者はいなくなる、雨でも魅力のある村にしたい。金剛山は雨でも登山者が絶えないが、すべてリピーター。雨でも雪でも人の絶えない村とはなにか？ ぜひこれからの村造りに大切な命題だ。

16:00

突然雨が止んで、葛城山、金剛山の頂上が綺麗に見えてきた。TVの情報で台風は既に紀伊半島を通り過ぎている。村の中には土砂流出の箇所もあるが、台風21号に比べると降水量も少ないし、このままで終わってほしいと思っていたところ、18時 警報解除となった。このまま秋の晴天に代わって、少し短いが収穫の秋となってほしい。

村長の日記

12月1日（金）

全国町村長会 ニュージーランド・オーストラリア親善使節団副団長として、10月24日~11月2日間参加する予定だったが、10月22日の台風21号による500mmに達する大雨により、ドタキャンをした。

村の被害調査、並び復旧に尽力するとともに、10月末には大阪府各部署への災害援助の要請。11月1日には大阪府市長会、高石市 坂口市長と共に衆参議員会館で大阪府選出国會議員に災害復旧の要望、国交省への要望活動。中旬には行政70周年記念式典、林野庁へ大きな被害を受けた林道の復旧と激甚災害指定のお願い。月末には前国連事務次長の赤阪さんの講演会、全国町村会総会 など、東京出張連続の1カ月だった。

村長の日記を忘れたわけではなかったが、村内の被害、府下の被害、陳情、要望。村長になって以来、今年の11月ほど忙しい時は無かった。

村長の日記はまた12月1日から復活する。

16:00

連合南河内地区協議会(さやかホール)

挨拶の指名を受けた。連合の皆さんも、私たちが幸せな生活を送りたい。そのためには地域に企業が力強く成長し、利益を上げて行くことが必要だ。

今の南河内は道路インフラの整備が悪い。全国的な道路事情を比較しても、大阪の道路インフラ整備は遅れている。その中でも特に南河内は悪い。富田林・河内長野・大阪狭山に高速道路は無い。しかも大阪市内に入る 松原線、東大阪線、堺線、湾岸線、朝夕の混雑はひどい。南河内から伊丹空港を利用する場合の所用時間は読めない。所要時間の読める関空は国内線が少ない。

道路インフラの不足・不備により、企業立地が河内から、京奈和沿線、交通便利地へ出て行く。企業の発展は物流、人の流れの利便性にある。現状認識の上、連合の皆さんにも道路インフラの充実を各方面へ要望していただきたい。今、河内の道路は完全な閉塞状態である。

村長の日記

12月5日(火)

10:00

12月議会開催

議事録署名人：田村議員 千福議員

会期：12月5日~19日(15日間)

今年は10月22日に台風21号来襲、しかも当日は赤阪地区の秋祭り。年に1度の地車曳行の日にもかかわらず、1週間雨が降り続いた上に、20日~23日朝1時までの間に500mmの雨が降った結果、村は大きな被害を受けた。現在はほぼ被害調査も終わり、あとは国の査定を受け復旧を急ぐ。

平成29年は全ての事業をスピードアップして、庁舎を初め、早く建設に着手したいのだが、なかなか前に進めない。すべての事業を早く進めるように、議員諸兄の協力をお願いしたい。

南河内環境施設組合議会報告：山形議員

大阪府水道企業団議会報告：関口議員

東庄町研修報告：井上議員

諮問第2号 平成30年6月30日で任期満了となる人権擁護委員 清水初代氏 再任の推薦案件。全会一致で再任。

専決処分 千早赤阪村一般会計の承認。

補正額 5,120万円

歳入歳出 それぞれ33億5,890万円(補正予算の主な歳出、21号台風の災害復旧費、4,910万円。)

議案第85号議案 査委員会条例改正 総務民政委員会付託 議案第89号議案 一般会計補正予算 総務民政、文教建設

議案第86号議案 職員に育児休業条例改正 総務民政 議案第90号議案 国保会計補正予算第4号 総務民政

議案第87号議案 村税条例改正 総務民政 議案第91号議案 会議保険補正予算第2号 総務民政

議案第88号議案 村道路線変更 文教建設 議案第92号議案 後期高齢者医療補正予算 総務民政

以上付託先を決議して終了。

村長の日記

12月7日(木)

総務民生常任委員会

委員長：山形議員 委員：千福議員、井上議員、関口議員、田中議員

- 議案第 85 号 監査委員条例改正
監査委員を 2 名から 3 名の増員。月例監査の日を例月 20 日~25 日に。事業監査の充実。
- 議案第 86 号 職員の育児休業に関する条例改正
非常勤職員の育児休業期間延長(1 年 6 か月→2 年)
- 議案第 87 号 村税条例改正
(1) 村民税控除対象配偶者定義(控除対象配偶者→同一成蹊配偶者に)
(2) 都市緑地法の一部を改正する法律により、固定資産税に掛かるわが町特例の割合を定める規定(3 分の 1 軽減)
- 議案第 89 号 一般会計補正
補正額 4,000 万円、予算総額 33 億 9,950 万円
総務費 680 万円、民生費 3,190 万円、商工費 540 万円、土木費、180 万円 他
- 議案第 90 号 国民健康保険特別会計補正
補正額、210 万円減額、予算総額 11 億 5,070 万円
- 議案第 91 号 介護保険特別会計補正
補正額、600 万円、予算総額 8 億 5,590 万円
- 議案第 92 号 後期高齢者医療特別会計補正
補正額、530 万円、予算総額 1 億 970 万円とする。

12月8日(金)

文教建設常任委員会

委員長：関口議員 委員：山形議員、藤浦議員、田村議員、田中議員

村長の日記

- 議案第 88 号 村道中学校前線路線変更

現在中学校前線の 1 部が中学校施設内を通過しており、生徒、教諭、一般住民、農業者及び下赤坂の棚田を訪れる観光客など、様々な人が自由に通行できる。

交通安全面、防犯面でも危険であり、教育環境としても好ましくない。中学校においても教育委員会内部においても、門扉を作りセキュリティ対策を早急に講じたいとの考えから、中学校敷地境界でゲートを作り、中学校への一般人通行を遮断する。

12 月 12 日 (火)

全員協議会

千早赤阪村環境条例策定状況

1. 環境条例には、環境基本条例、環境保全条例の 2 つがある。

- 環境基本条例：環境全体のバランスを考えて、地域全体の環境の形を考えた条例。
- 環境保全条例：主に公害の防止、環境の保全を考えた条例。

村の有する課題を選択し、具体的な方針を記載できる、但し府の条例との調整が必要。

2. 請負契約の報告

甲取橋ほか 1 橋の補修工事、落札者、矢倉土木建(株)

3. 千早赤阪村エスコ事業

村の施設は設備の老朽化が進行し、付帯施設(設備)は 1 5 年程度で耐用年数を迎えるとともに効率が非常に悪くなる。

村は公共施設で省エネ診断、設備改修工事、省エネ効果の保証を含む設備管理までエスコ業者が一括して実施する提案を募集した。

最優秀提案者として、大和エネルギー(株)を選定した。

対象施設

くすのきホール、保健センター、生き生きサロンくすのき、B&G 海洋センター、学校給食センター。

省エネルギー率 3 5. 1 %、光熱水費削減率 7 3 5 万円、1 5 年間で 1 億 1 千万円の節約

すべての施設でエネルギー関係の機器は耐用年数を過ぎており、取り換えが必要である。機器とり替え料は 2 億 3, 2 0 0 万円。

村長の日記

15年で1.1億円の省エネ効果を得られる。

12月14日（木）

浦野先生 来庁

平成30年、国に対する重要施策と予算要望を浦野先生にお願いしたところ、本日回答を持って来庁いただいた。

1. 過疎対策の促進

村はH26年過疎指定を受けた。大阪府では村が過疎地域自立促進特別措置法上の財政措置を受ける為、大阪府過疎地域自立促進方針は策定されているものの、過疎対策の為、村から府の過疎対策計画を要請した場合には府の過疎地域自立促進計画を策定するように、過疎地域自立促進特別措置法を改正してほしい。

解答：

過疎法で、府は自立促進方針は村から要請があった場合には当該方針を策定しなければならない。しかし自立促進計画は府が過疎の村に協力して講じようとする措置の計画であり、府の計画は府が計画を策定するか否かに掛かっている。

2. 道路整備

- (1) 金剛トンネル、府道富田林五條線の千早赤阪地内→奈良県五條市地内の県道富田林五條線を結ぶトンネル実現の為、1日も早い事業化を。
- (2) 南河内地域高速道路の実現に向けた事業化を。
- (3) 国道309号線バイパス3期区間(4車線化)の早期整備を。
- (4) 大阪万博に向け、その後のIRアクセスに向け、新大阪駅と阪神高速環状線を高速道路で連絡を。
- (5) 阪神高速道路14号松原線の村への延伸、松原線の渋滞緩和策として車線追加(立体化)と、阪神高速道路11号池田線の車線追加で河内より伊丹空港保アクセスを確保を。

解答：

- (1) 京奈和道開通後の交通量を見て、大阪府、奈良県と連携して必要性を見る。
- (2) 京奈和開通後の交通の変化で判断する。

村長の日記

- (3) 大阪府が2期完成後事業化を判断する。
- (4) 府の高速道路計画と整合を取って検討する。
- (5) 4の回答と同じ。

3. 都市鉄道の強化

河南、千早赤阪の地域は都市基盤整備が府域で1番遅れている。特に鉄道が存在しないことから、大阪都心へ、関空へのアクセスが悪い。

近鉄上ノ太子駅から千早赤阪村を經由し河内長野、泉佐野駅までの相互乗り入れを国において検討を要望する。

解答：

国はこうした検討を行う上で必要な協力を行います。

解答をいただいた後、先生との話の中で、村域の95%が市街化調整区域、しかも土砂災害指定地域が住民居住面積の60%を超える。したがって現在の家が老朽化したら新築が出来ない、法令で村が無くなる事態になった。ぜひ打開策を考えてほしい。

1 2月19日 (火)

議会最終日

第93号議案 職員の降給に関する条例の制定

地方公務員法では給与、勤務条件に関する事項、職員の降給など条例で規定することとされているので制定する。

議案第94号 職員の退職手当に関する条例の改正

「国家公務員退職手当法の1部を改正する法律」が改正されたため、同様に職員の退職手当に関する条例の改正。

議案第95号 第96号議案 議会の議員報酬、および費用弁償に関する条例改正 特別職の職員の給与に関する条例の改正について。

平成29年の人事院勧告に基づき、これに準じた特別職の職員、議会議員の期末手当の改正。

第97号議案 一般職職員の給与に関する条例の改正

人事院勧告に基づき国家公務員の給与が改定され、これに基づき一般職の職員の給与改定を行う。

村長の日記

国に準じて高齢者給与の改正を行う。

議案第98号 29年度一般会計補正予算

補正額 5,540万円、歳入歳出総額 34億5,490万円、主に災害復旧費 5,340万円。

議案第99号 下水道事業特別会計補正

補正額10万円、歳入歳出総額2億4,370万円

以上午前中に終了

一般質問

藤浦議員

若手職員の人材育成と休職者等への対応について

10月1日に新規職員が3人採用された。職員募集のホームページでは、「職員77人中30人が若手職員」とPRされていた。若手職員が占める割合が高い状況のなかで、新規採用後の若手職員の人材育成が重要であり急務と考える。小規模自治体の本村では、幅広い業務に対応できる能力(スキル)が必要だと思うが、今後村政の中核を担うべき若手職員の人材育成にどのように取り組んで行こうとしているのか、伺います。また、長期休職されている職員が2名いると聞いているが、いつまで身分保障されるのか。休職者以外にも病気休暇されている職員が頻繁にいるようである。77人の職員数に対して、休職や病気休暇されると他の職員には大きな負担になる。休職したからといえすぐには職員採用はできないが、どのように対応しているのか。また、休職や病気休暇の職員が出ないための何らかの対応は必要でないか。

山形議員

公共交通について今後の方針は

平成26年12月議会において、「新しい公共交通のあり方」について質問したときの答弁は、本計画は「村民の誰もがわかりやすい、使いやすい、みんなで支える」を基本方針とし、皆様の移動手段の確保・既存の公共交通との連携、村民の行政・事業者が創り支えることを目標とすることでしたが、あれから3年が過ぎようとしているが村の方針を伺う。

遊休農地の利活用について

村長の日記

平成 29 年 9 月議会において、「遊休農地の利活用」について質問したときの答弁では①本年度から大阪府と共同で「農の活性化プロジェクト」を実施していく予定であり、その中で企業参入による圃場整備や農業への新規参入を促進する取り組みを進めていく。②農業委員会に関する法律の改正により「農地利用最適化の推進」が委員会として必須の事項になった。その中には遊休農地への対策も含まれており、農業委員会と農地の有効活用する方策について議論を深めて行く。③再質問では、遊休農地の実態把握はどのようにしているのかについて、農業委員と共に遊休農地や農業転用の現地確認を行う農地パトロールにより実態把握に努めている。以上この 3 点について再度伺う。環境条例策定に向けてのワークショップの結果は

条例策定に向けて、第 1 回ワークショップが行われたが、その時の条例の基本的な考え方や、環境条例の構成等の勉強を行ったとのことだが、①参加者は 19 名であったが、19 名はどの地区からの参加であったか。②特に多く出た意見は。③次回も同じメンバーで行うのか。この 3 点を伺う。

関口議員

台風 21 号による被害対策について

10 月 22 日発生した台風 21 号は、千早赤阪村でも多数の被害が発生した。激甚災害に指定する事と決まり農地などの復旧工事へ補助が行われる。台風の被害状況と民有地の復旧工事についても何らかの補助対策が必要ではないか。

国保料の軽減を

平成 30 年度から始まる国保の都道府県に伴い、大阪府は保険料率や減免制度を一本化するとしており、保険料の大幅値上げが懸念されている。村は都道府県化にあたり、今年度より国保料を引き上げた。大阪府は 10 月 2 回目の仮試算を公表した。それによると前回試算よりも低い額となっている。村の計画を伺う。

千福議員

台風 21・22 号による災害等の総括は

10 月 21 日から 23 日にかけて台風の接近と豪雨により、村内において家屋に浸水や、村道、山林、農地、水路といたるところに被害をこうむりました。被害に遭われた方にお見舞いを申し上げますとともに人的な被害がなく幸いです。現在復旧に向け総力をあげ取り組ん

村長の日記

でいただいているとおもいます。また、当日は村において初めての避難指示（地区限定）が発令され災害の現場と避難所の開設などで大変であったと思います。そこで、担当課においては様々な問題点があったかと思いますが総括はされているかお伺いします。次に、今後住民の安全や安心に向け、あってはならないが災害のない村に向けての取り組みを伺います。

鳥獣被害対策の進捗状況は

近年、鳥獣被害、特にイノシシの被害は水稲をはじめ、野菜等の畑、果樹にも及びイノシシの増殖と共に被害がますます増加しております。そうした中、今年6月の一般質問において議員より質問され、答弁されましたが、以後どのような対策を講じられたかお伺いします。この問題は防衛より捕獲に向けての対策が必要かとおもいます。近隣の市・町の対策情報を参考にし、山間の南河内全域において連携し、捕獲対策、後処理、更に食肉加工に向けて検討していただきたい。

田村議員

千早地区悪臭問題の現状を問う

千早地区の住民を長年悩ませ続けている問題、それが新千早トンネル近郊の肥料工場からの悪臭問題である。これまでも臭いに対する不快を訴える声は聞かれたが、ここ3~4年とりわけ強くなっている。また千早地区には金剛山登山口があり、観光資源に乏しい本村にとってその目玉となるべき地区であろう。しかし、悪臭問題は観光の阻害要因としかかなりえない。悪臭問題の完全な解決は、住環境の改善という観点からはもちろんのこと、観光の促進という観点からも急がねばならない課題である。以前聞いたところでは、悪臭が強まった主な原因は施設の老朽化にあり、本年秋ごろに改修工事完了の予定とのことであった。確かに悪臭が弱まったという声もある一方、いまだにただよとの声も聞かれ、まだまだ完全に問題が解決したとは言い難い状況にある。現在のところ改修工事はどの程度まで進んでいるのか伺う。

空き家バンクに民間事業者の力を

空き家バンクの現在の登録件数は9件、うち5件が成約となっている。定住人口増という観点からは一定の成果を挙げていると言えようが、その一方で物件の登録件数は移住希望者の数を大きく下回っており、まだまだ改善の余地が残されていることも確かである。そこで伺いたいのは、空き家バンクと民間事業者との連携の可能性である。一例を挙げれば、空き家バンクの登録件数が一桁である一方、民間不動産事業者が取り扱う物件は空き家バンクに登録されていない。移住希望者が村内の物件をすべて比較・検討しようとするれば、空き家バンク

村長の日記

や事業者が提供する各種サービスを横断的に参照せざるをえず、利便性という点で課題を残している。法人が提供する不動産情報も空き家バンクで照会できるようにするなど、移住者へのワンストップサービスを提供することで移住者の多様なニーズに合致した空き家バンクが実現できるのではないか。

井上議員

原付バイクのご当地ナンバーによる地域振興

ご当地ナンバープレートを全国で初めて本格的に導入したのは、2007年の愛媛県松山市で、きっかけは市職員より、町のブランド力向上のために出されたアイデアである。その後、2011年から導入」が急増しており、2017年8月1日現在、473市区町村となっている。要因として、実際に走っている原付バイクを見て自主的に始められたケースが多く、補助制度などの外的要素はなく、比較的取り組みやすく、地域側の潜在的ニーズの大きさもありそうだ。「いかにプレートに表現するか」は、地域のアイデア勝負の取り組み。以上の様なことから、本村でも「シティーセールス」の一環として、地域の個性と魅力をアピールする機会として、導入を検討してはどうか伺う。

ピロリ菌の検査・除菌について

胃がんの90%以上はピロリ菌の感染による胃炎が原因で、ピロリ菌を除菌すれば胃がんの発生を抑制することが可能であり、最近注目されている。また、H25.2.21に検査及び除菌の保険適用枠が「慢性胃炎」にまで拡大され、一歩前進したが、追加された対象は「内視鏡検査において、胃炎の確定診断がなされた患者」となっており、そのため別検査でピロリ菌が認められても胃カメラで胃炎と判断されないと適用されない。このような状況のため、検査・除菌が受けにくいと思われる。ピロリ菌の除菌は、早い時期に行ったほうが効果があり、30歳までに除菌すれば、ほぼ100%胃がんにならないという報告もある。全国的にも、中学校の検査・除菌を自治体が行っている所もあり、早期発見し除菌治療を促しリスクの低減を図る傾向だ。本村においても何らかの形で助成できないものか伺う。

行政の答弁は議会広報で。

来年は平成30年、31年5月には年号も変わります、千早赤阪村も大きく変わらなければ村の存続は無い。

村のメイン産業でありました林業は既に業とは言えなくなって久しい、今、村の産業は何だろうか？ 少子高齢化は止まらない、過疎から脱却は出来るのか？村は正念場を迎えている。